

物流における環境配慮

グローバルにサプライチェーン全体を見据えた物流の合理化・効率化を推進し、物流に伴う輸送CO₂排出量の削減を推進しています。

グローバルな「グリーン物流活動」の推進

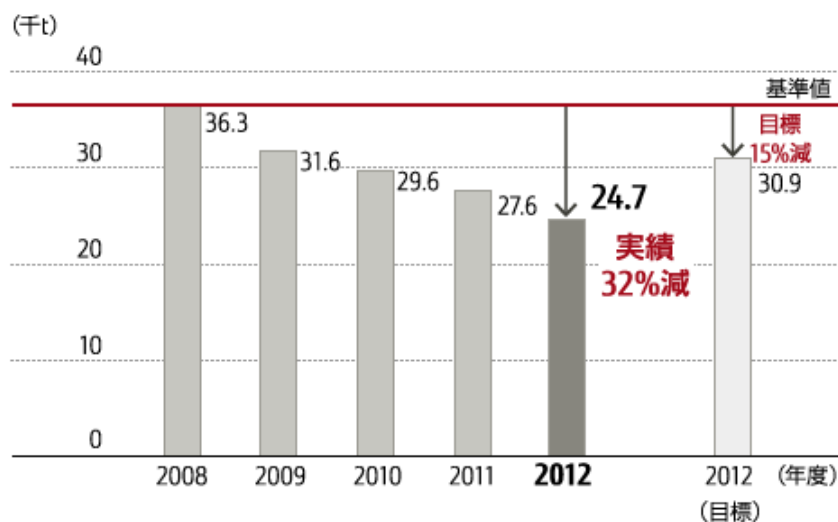
富士通グループでは、国内外グループ各社の物流部門が連携し、製造部門や営業部門とも協力しながら、輸送に伴うCO₂排出量の削減を推進する「グリーン物流活動」に取り組んでいます。

また、2011年にはお取引様とのグリーン物流活動を推進するために、富士通のグリーン物流の考え方やお取引様にお願する具体的内容をまとめた「富士通グループグリーン物流調達基準」を作成。これをもとにお取引先様とのパートナーシップを強化し、サプライチェーン全体にわたって、物流に伴う環境負荷の低減に努めています。

-  [富士通グループ グリーン物流調達基準 第1.0版](#) [253KB]

さらに、2012年度は、第6期環境行動計画で掲げた「国内輸送CO₂排出量を2012年度末までに2008年度比で15%削減」の実現に向けて、モーダルシフトの拡大やトラック台数の削減に取り組みました。その結果、国内輸送CO₂排出量は24.7千tとなり、2012年度で2008年度比32%削減（物量変動・震災の影響を含む）を達成することができました。

国内輸送CO₂排出量推移（富士通グループ）



第7期環境行動計画の目標について

第7期環境行動計画では、富士通グループの輸送業務（国内輸送、海外域内輸送、国際輸送）についてグループ全体で「輸送における売上高あたりのCO₂排出量を2011年度比4%以上削減する」ことを目指し、グリーン物流活動を推進しています。

モーダルシフトの適用拡大

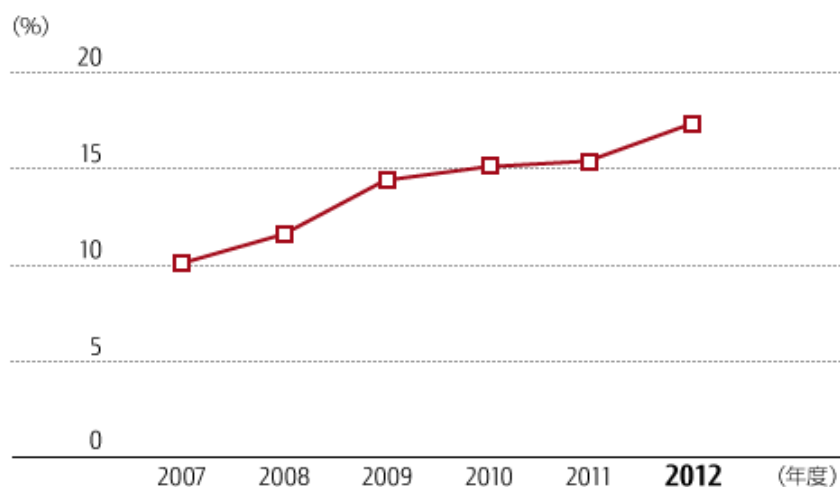
富士通グループでは、モーダルシフトによるCO₂排出量の削減に取り組んでおり、部材の調達から製品輸送において、鉄道の効果的な活用や、航空便輸送から陸上輸送への切り替えを進めています。

2012年度には、株式会社NTTドコモ様向け、KDDI株式会社様向けに加え、ソフトバンクモバイル株式会社様向けの携帯電話も鉄道による輸送を実施し、鉄道輸送の拡大を進めました。

また、個人のお客様向けのパソコンについても、2012年10月から、富士通アイソテック株式会社、株式会社島根富士通から東京物流センターまでの輸送を従来のトラックから鉄道に切替えました。

2010年3月のエコルールマーク企業認定取得以降も、鉄道輸送を積極的に適用拡大しています。

国内モーダルシフト率(富士通)



FDK株式会社では、山陽工場（山口県）と湖西工場（静岡県）間のトラック輸送を鉄道輸送に切り替え、輸送CO₂排出量削減に取り組んでいます。山陽工場から製品を発送し、湖西工場では使用済み通い箱を山陽工場に返却するなど、往復で鉄道を利用しています。また製品と通い箱の積み付け方法の見直しにより積載率向上を図りました。



製品を鉄道コンテナに積載した様子

・ [国内モーダルシフトの取り組み](#)

トラック台数の削減

2012年8月、大手量販店様物流センター様向けの出荷製品の輸送において、一部の地域で他社家電製品との積み合せを開始しました。これによってトラックの積載率の向上、車両台数の削減を実現させました。

保守部品物流では、首都圏（東京、南町田、千葉、横浜地区）の保守部品を管理するパーツセンター間、およびCE（カスタマー・エンジニア）までの輸送ネットワークを見直し、車両台数の削減を図りました。

国際輸送の取り組み

富士通グループでは、国際輸送におけるCO₂排出量の測定を2008年度から開始し、削減活動に取り組んでいます。

例えば、モーダルシフト（航空輸送から海上輸送）、輸送距離の短縮、コンテナ充填率の向上、航空輸送の輸送回数削減などを実施しています。

海外グループ会社の取り組み

主要海外グループ会社においては、2011年度から国際輸送・域内輸送の製品・調達輸送に関連するCO₂排出量の計測を開始しました。輸送事業者と連携し、お客様の御協力を得ながら、グリーン物流活動を推進しています。

低公害車の導入による輸送CO₂排出量の削減

英国を拠点とする富士通サービス（FS）では、2012年より保守部品の配送車両にアイドリングストップ機能を装備し燃費性能にすぐれた低公害車を導入、保守部品配送向けに活用しています。



導入した低公害車

緊急配送の削減による距離短縮、積載率向上

同じく富士通サービス（FS）では、保守部品を管理するパーツセンターの在庫量を適正化することで、保守部品の配送距離を短縮しています。工程上で余裕のあるものについては、当日配送から翌日配送に変更して荷物を集約、適切な車格に変更することで積載率を向上させています。

モーダルシフトの推進（航空輸送から陸上輸送への切り替え）

香港を拠点とする富士通PCアジアパシフィック（FPCA）では、上海から香港までの調達品輸送において航空輸送から陸上輸送へとシフトする取り組みを開始しました。CO₂排出量の低減と共に、コストダウンにも貢献しています。

梱包改善による輸送効率化

オーストラリアを拠点とする富士通オーストラリア（FAL）では、お客様にお届けする製品が複数個口に分かれている際、お客様単位に製品を集約梱包しています。この取り組みにより、使用梱包材の削減と輸送効率化につながりました。

包装に伴う環境負荷の低減

富士通グループでは、物流プロセス全体で環境負荷の低減を図るべく、製品や部品の包装における3R（注1）化を推進しています。

包装資材の使用量削減

富士通グループの製品に使用する段ボールなどの包装資材について、リユース可能な代替品への切り替えを推進しました。その結果、段ボールや緩衝材などの使用量を削減することができました。

さらに、富士通の引取り修理サービスの輸送においても、リターナブルコンテナを採用。1回の使用だけで廃棄していた段ボールや発砲緩衝材ではなく、繰り返して使える包装資材を使用しているため、廃棄物が削減でき、環境への負荷を軽減しました。

（注1）3R：

Reduce（廃棄物の発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再資源化）。

- [製品的环境配慮](#) [包装材へ環境配慮](#)



IAサーバ用リターナブルコンテナ